

ぐんし
軍司 マリヴェルとくべつようごろうじん みやぎ かいご
特別養護老人ホーム キングス・ガーデン宮城 介護ヘルパー

◇プロフィール

○ フィリピン出身。宮城県気仙沼在住。二児の母。日本人男性と結婚し 1998年来日。

日本に来たときは、日本語はほとんどわからなかったが、テレビを見たり、家族との生活の

中で、自然習得によって会話を中心に日本語を覚えた。そのため、文字(ひらがな・カタカ

ナ・漢字)を学ぶ機会が少なく、わからないまま、生活していた。

○ 2011年東日本大震災で、働いていた水産加工工場が流され、仕事をなくす。

その後、認定NPO法人難民支援協会の就労支援を受け、介護ヘルパー2級をめざし

て、気仙沼市役所「小さな国際大使館」の日本語教室で文字を学び、「やさしい日本語」

でのヘルパー資格取得のための講座を受け、介護ヘルパー2級に合格し、2012年1月

から気仙沼で介護ヘルパーとして働く。

○ 「バヤニハン気仙沼フィリピンコミュニティ」で、町に花を植えたり、震災後の6月から「バ

ヤニハン気仙沼ラジオ」を開始するなど、活動。

◇外国人住民(女性)の視点から

わたしのように、出産・育児・介護・仕事のためにいそがしいことが理由で、教室で長い時間、日本語を勉強するチャンスがあまりなく、生活しながら日本語を覚えた外国人女性は多いと思います。会話にはあまり困りませんが、読み書きが苦手なので、そうじや工場などの仕事をしている人が多いです。私にとって、介護の仕事をするためのヘルパーの資格取得は、大きなチャレンジでした。

私たちを応援してくれる人たちが、日本語教室や介護ヘルパーの講座、就職訓練をしてくれたおかげで、今、気仙沼や大船渡の仲間が、地域の介護施設でヘルパーとして専門的な仕事ができています。毎日、どうしたら利用者さんの痛みを和らげることができるか、どうしたかもっと楽しく過ごしていただけるかを考えながら、勉強して工夫することが楽しく、この仕事にやりがいを感じています。

今は、介護福祉士の試験の勉強をしていますが、漢字についてはとても難しいと感じています。多くの外国人にとって、漢字の問題は大きなネックになっていると思います。

それから、私たちのように日本人の家族として地域に長く暮らす外国人は、その地域に新しく来る外国人を助けたり、日本人コミュニティとつなげることができます。一番必要なことは、正しい情報を伝えることと文化的な摩擦の解消です。そのために、外国人コミュニティによる情報発信はとても有効だと思います。コミュニティラジオや地域の会議など外国人コミュニティが発信できる場があるといいなと思います。国籍やことば、年齢、性別などにかかわらず、全ての住民が地域社会に参加することで、地域は強くなれると、活動を通じて感じています。

◇これから日本に暮らす外国人女性のために

- (1) 日本にきたばかりのとき、日本語教室がどこにあるのか、どうやって申し込むのか、
わかりませんでした。市役所の窓口や外国人のための情報サイト(WEB)で、多言語
やさしい日本語での案内があるといいと思います。また、日本人と結婚して日本に住
むことになった外国人女性は一人で日本の社会に入ることになるので、市役所に
外国語がわかるスタッフがいたり、同じ国の先輩を紹介してくれるシステムがあるとい
いと思います。
- (2) 日本語の会話は、生活の中で、少しずつおぼえることができますが、文字(ひらがな、
カタカナ、漢字)は、自然におぼえることはできません。日本の社会は文字が多いですか
ら、読み書きができないと、安全に安心して生活することは難しいと思います。外国人
には、はじめにしっかりベンキョウするチャンスがあったほうがいいです。
- (3) 介護の仕事をもっとがんばるために、介護福祉士の試験にチャレンジしています。でも、
漢字はとても難しいです。外国人が日本で仕事をしたり、試験を受けたりするとき、
漢字は本当に大変です。日本の社会で外国人がもっと活躍することができるように、
難しい漢字にフリガナをつけたり、試験時間を延長する、辞書の使用を許可するなど、
試験によって、少し配慮をいただけたらと思います。
- (4) 女性は、子供を妊娠したり、子育てをしている間は、日本語の教室に通うことは難し
いです。でも実は、働けないこの期間が学習チャンスだったりします。妊娠前期は役所と
つながるチャンスでもあり、出産後は託児付きの日本語教室が増えるとい
いなと思います。また、テレビやインターネットで、あいている時間に日本語を勉強でき
るようになるといいと思います。

(5) 東日本大震災のとき、困ったことは、正しい情報が何か外国人にはなかなかわからないことです。避難所でも外国人が困っていました。特に女性です。地震や津波など、外国人にはわからないことが多いので、Facebookなどで、多言語や、やさしい日本語で、情報を伝えるようにしてほしいです。避難訓練に外国人も参加できるようにしてほしいです。

(6) 今、日本は、海外から介護ヘルパーをたくさん呼んでいますが、日本に住んでいる外国人の女性も、日本語を勉強すれば、地域で働くことができます。日本にいる外国人女性も、社会に参加できるよう、女性のための仕事の日本語のクラスがあるといいと思います。

【参考1】^{みやぎけんちようじゆしやかいせいさくか}宮城県長寿社会政策課による^{しえん}支援

「EPA、^{ていじゆうがいこくじんとう}定住外国人等^{かいごじんざいかつよう}外国人介護人材^{ひつようせい}活用の必要性」
^{とうほくふくしだいがく}東北福祉大学と^{れんけい}連携し^{しかくしゆとく}資格取得に向けた^{むけた}介護^{かいご}日本語教育^{ほんごきょういく}コースおよび^{およ}国家試験^{こっかしけん}
^{たいさく}対策^{せっち}コースを設置し、^{かいごふくしししかく}介護福祉士^{しゆとく}資格の取得に必要な^{ひつよう}知識と^{ちしき}介護技術^{かいごぎじゆつ}の習得^{しゆうとく}を図り、^{はか}
^{しけんごうかく}試験合格を^{しえん}支援し^{ていちゃく}定着^{げんざいかいごしせつ}につなげるもの。現在^{げんざい}介護施設^{かいごしせつ}で働き、^{はたら}上位^{じようい}資格^{しかく}の取得^{しゆとく}又は
^{にほんご}日本語の^{おうようりよくじよう}応用力^{かんが}向上^{ていじゆうがいこくじん}を考えている^{たい}定住外国人^{どうよう}に対しても^{こうざ}同様の^{じゆこう}講座^{ししつこうじよう}を受講^ししてもら
^いい、^{ししつこうじよう}資質^し向上^しにつなげる。

- ^{かいごにほんごきょういく}介護日本語教育コース
 - ・^{だいがくこうぎ}大学講義^し:3~5時間×10回
 - ・^{つうしんこうぎ}通信講義^{しゆう}:1時間×週2回×^{ていど}82回程度
- ^{じぎょうしょ}事業所^{たい}に対する^{だいたいしよくいんそうとうぶん}代替職員^{ほじよ}相当分の補助
- ^{じゆこうせい}受講生^{たい}に対する^{こうつうひじよせい}交通費助成

【参考2】^{ばやにはん}バヤニハン^{きせんぬま}気仙沼^{こむにんてい}コミュニティー

^{けせんぬま}気仙沼に^す住んでいる^{かつどう}フィリピン人^{まちづくり}たちの活動^{きょうりやく}として、町づくり^{きょうりやく}についての協力^{きょうりやく}として、イベ
^{ぶんか}ントでの^{しょうかい}フィリピン文化^{まち}の紹介^{びか}や町の美化^{まち}に対する^{まづ}ボランティア^{まづ}、フィリピンに^{まず}いる貧しい^{まず}
^こ子どもたち^{しょう}や障がい^このある子どもたち^{しえん}への支援^{おこな}を行っている。月^{つき}に一度^{いちど}の第一^{だいいち}水曜日^{すいようび}
^{けせんぬま}にバヤニハン^{ほうそう}気仙沼ラジオ^{けせんぬま}を放送^くしており、^{じょうほう}気仙沼^{けせんぬま}の暮らし^{べんこうざ}の情報^{べんこうざ}(気仙沼^{べんこうざ}弁講座^{べんこうざ}など)
^{じゆうみんむけ}など^{じょうほう}フィリピン人^{はっしん}住民^{はっしん}向けの^{けせんぬま}情報を^{しんさいご}発信^{しんさいご}している。バヤニハン^{けせんぬま}気仙沼^{しんさいご}ラジオは、^{しんさいご}震災^{しんさいご}後^{しんさいご}
^{けせんぬま}に^{つう}気仙沼^{たげんご}カトリック教会^{しえん}を通じて^う多言語^{かいし}センターFACIL^{かいし}の支援^{かいし}を受けて^{かいし}開始^{かいし}した。